

平成 24 年 度
施 政 方 針



三 豊 市

平成 24 年第 1 回三豊市議会定例会にあたり、平成 24 年度の予算案をはじめ、諸議案のご審議をお願い申し上げますに先立ち、私の市政運営に取り組む所信の一端を申し上げ、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

市政運営の所信(田園都市みとよの創造)

昨年は、東日本大震災と福島原発事故という日本史上に忘れられることのない大災害がありました。

被災者の皆様に改めてお見舞い申し上げますとともに危機管理への考え方、発災時の対応等、深く考えさせられた 1 年となりました。三豊市でも今後一層、市民の皆さまとともに危機管理に、現実感をもって取り組んでいかなければならないと考えております。

三豊市も合併して 6 年が経過しました。市民の皆様のおかげで三豊市としての一体感も大きく進展したと実感しています。4 年後からの段階的な交付税一本算定にそなえ、今後とも計画通り、簡素で効率のよい行政を目指して、行財政改革は継続して参ります。そして、私たちが第 1 ステージで重点目標とした「市としてやっていける財政力の基礎固め、三豊はひとつの市民意識の醸成」という困難なテーマを市民の皆様のおかげで乗り越えましたので、いよいよ第 2 ステージに進みます。

第 2 ステージ、私達が掲げる旗印は「田園都市みとよ」です。「田園都市みとよ」の基本コンセプトは、豊かな自然環境に恵まれ、自然と共生し、地域の持つ資源やエネルギーを有効利用して、人々が健康で明るく、助け合い、共存することにあります。ここでは、自発的な創意工夫が多様になされ、ハードウェアに偏重することなく、ソフトウェアを充実させ、閉鎖的地域主義をではなく、広域的で開かれたみずみずしい地域主義を目指すものであります。

戦略的施策は三豊市新総合計画で示された 6 つの目標に基づいて展開

します。さらに、懸案の重要案件は2年間を目途に重点プロジェクトとして位置づけ、結果を求めて参ります。

重点プロジェクトは、

- ① 地域エネルギーの活用(太陽熱、資源ごみ)
- ② 空き家、耕作放棄地等 地域資源の有効利用
- ③ スポーツや文化の振興で、健康づくり
- ④ 総合こども園創立に向けての研究と実践
- ⑤ 三豊市型農業の推進
- ⑥ 企業誘致で新しい働く場の確保
- ⑦ 自主自立した市民自らが創るまちづくり

です。

スピード感を求めますので、議会への対応も年度主義的なものではなく、毎議会が提案と議論と決定の場とさせていただきます。そのための組織改編を行います。重点プロジェクトは、複雑で多様化したテーマへの挑戦ですので、市役所だけがすべてを引き受けるのではなく、もっと幅広い人材を活用し、専門家や市民、市民団体、NPO、民間企業、あらゆる能力の参加を求め、それらを組み合わせていきたいと思えます。さらに市役所に必要な人材確保として、職員の採用方式も時期、採用方法等一部変更させていただきます。

また、今年度は詫間地区をモデル地域にして地域内分権を開始します。さらに役所内に専門課を設置して市内全域に拡大を図って参ります。これは国よりも15年先に進んでいる超少子高齢化社会のあり方として、高齢者層に新しい経済的リターンと社会的リターンを実現し、高齢者の活力を開花させる新しい労働の形態としても試みてみたいと存じます。

昨年3月11日以来、三豊市においても市民が自ら考え行動しようという今までにない強い自治意識の芽生えを感じます。今こそ地域特有のニーズを市民力で実現していく新しいコミュニティづくりが展開され

る時代になったと考えます。

当初予算の概要

このような方針の下に編成した平成24年度一般会計当初予算は、歳入歳出272億7千万円とするものであり、貴重な財源を市民の皆様にとって有効に活用できるよう、第四期実施計画に掲げた必要性のある事業を重点的・戦略的に推進して参ります。以下新総合計画に示す6つの基本目標ごとに、その概要をご説明申し上げます。

1 活気にあふれ、産業が躍動するまち(産業・雇用)

昨年設立した農業振興センターを軸として有効な農業振興施策を推進します。また、有害鳥獣の駆除対策も進め、担い手の育成・確保も図ります。

特に、三豊市としての農業振興地域整備計画を策定することにより優良農地の確保を図り、農地の利用集積率を高め、担い手農家の経営規模の拡大を図ります。併せて農業用施設の適切な維持管理を図ります。

市内地元企業の一層の振興のため、昨年度までの中小企業振興基金補助事業を事業者にとってより活用しやすいように市単独補助事業に組み替えし、あわせて結果報告を求め、その効果を検証します。

また、観光の振興については、三豊市のもつ資源を明確にし、総力をあげて発信することだと思っておりますので、観光協会、国際交流協会、商工会等とも力をあわせ、三豊市の産業政策として取り組みます。特に、昨年度に実施したPR映像の放映や韓国陝川郡との交流の成果を受け継ぎ、引き続き、全庁を挙げて知名度向上事業を推進するとともに、メールマガジン会員のさらなる拡大に努めながら、そ

の発信コンテンツの充実と成果を求めます。トップセールスにつきましては、議員各位にも是非ご協力をお願いし、三豊市を売り込んで参ります。

このほか、関東・関西ふるさと会やホームページの充実による発信力を強化します。定住については、三豊市の地域資源の有効利用の中の重要事業として位置づけ、徹底して成果を求めて参ります。

企業誘致については、雇用こそ市民生活や福祉充実の源流だと思いますので、私と議会議員全員の政治テーマととらえ、なお一層積極的に取り組んで参りたいと存じます。

2 豊かな自然と共生し、環境にやさしいまち(環境・生活)

「循環型環境都市」こそ田園都市みとよの原点です。ゴミの再利用の方向はできましたので、次に地域エネルギーの活用に取り組みます。まず、9月に稼動開始予定の四国初のメガソーラー発電所に続いて、今後、市内で複数個所の誘致を目指して取り組み、これを具体的事例として強力に「田園都市みとよ」を発信して参ります。また、メガソーラー発電所設置後に見込まれる見学者を対象に三豊市の様々な魅力のPRに努めます。

竹の資源化に関しては、学術機関、関係企業との共同研究、共同開発事業に取り組み、引き続き可能性を追求して参ります。

新ごみ処理施設の整備に関しては、次期ごみ処理方式に沿い、地元調整、民間との委託契約書、仕様書作成業務、周辺整備を行います。また、新火葬場の整備については、選定地の確定と基本計画を策定します。

住宅政策については、市営住宅ストック総合活用計画に基づき事業を計画的に進めて参ります。

水道事業については、計画的な老朽管の敷設替えを行うとともに、

送配水施設等の耐震化や配水池の新設を行います。

3 人々が助け合う、安全・安心なまち(安全・安心)

3. 1 1 以来、急速に高まっております市民の皆様の危機管理意識と協調して東南海・南海地震等に備え、地域防災計画・津波避難計画の見直し、防災行政無線移動系の整備を行います。

さらに、老朽ため池の改修、高潮対策、民間住宅耐震対策支援事業、ため池ハザードマップ緊急支援事業に取り組むとともに、尚一層、自主防災組織の強化、公的支援のあり方、情報伝達の仕組み、他自治体との支援体制の強化等、現実感をもって整備を進めます。

また、発災時のすみやかな初動体制の確保と被害の最小化を図るため、危機管理センター等の整備を急ぎ検討します。

4 人々が支えあい、健康でいきいきと暮らせるまち(医療・健康・福祉)

健康こそ最高の福祉であり、田園都市みとよの重大要素です。そのため、各種健診の受診率の向上に数値目標を立てて取り組みます。

また、「三豊市地域医療あり方検討委員会」の答申を受けて、三豊市立医療機関の整備計画等を策定し、地域医療の充実に努めます。

また、生涯現役時代、生涯青春時代の自助・共助・公助のバランスのとれた地域社会の実現に取り組みます。介護サービスを安定的に供給するためには、2級ホームヘルパー資格取得の推進と市内事業所への就業支援を図ります。

子育て支援については、これこそ三豊市民総力をあげて取り組むべきテーマであり、保護者、特にお母さんを孤立させない、やさしく温かい田園都市づくりを目指します。

また、中学卒業までの子どもの医療費を引き続き助成するとともに県内初の事業として、現在実施しているファミリー・サポート・

センター利用券支給事業を発展させた子育て応援サービス券支給事業と一般不妊治療助成事業に取り組んで参ります。

5 豊かな心を育み、文化を発信するまち(教育・文化)

教育施設の耐震化と改築、空調設備の整備、新学校給食センターの建設計画を進めます。

また、三豊市立学校再編整備基本方針では、小学校数は現在の 25 校から 8 校であります。これはもはや、どこがどうということではなく、三豊市の小学校をゼロベースで作直す、すべての小学校の再編と考えております。引き続き対象校区の説明会等を進めていきます。

また、「太平洋戦争と三豊」のテーマのもと詫間海軍航空隊の資料収集を徹底して行います。公共施設の利用促進のための指定管理者制度導入は、重要テーマであると考えますので、引き続き全庁をあげて具体案を作成すべく協議をスピードアップします。

6 とともに考え行動する、自らが創るまち(人権・住民自治・行財政)

時勢は明らかに地方分権に進んでおります。地方分権社会とは、地域内分権社会であり、結局市民自身がつくるまちづくりの時代の到来ということです。市民自身が地域づくりにどれだけ責任を持つか、熱心かで、今後のコミュニティが決まってくるということです。今後、国家予算も地方予算も減少すると思います。市職員の数も減少しますが、地域はみずみずしく活力を持たねばなりません。今後の地域コミュニティづくりは、最も地域ニーズを知る市民自らがそのアイデアを思いきり発揮して行う方向に向かって参ります。

平成 24 年度においては「地域内分権＋学校再編」を主たるテーマで昨年に引き続き、市民対話集会を開催します。

む す び

少子高齢化が定着した今の三豊市は、昭和の感覚ではとてもやっていけない現実には直面しています。確かに昭和はいい時代でしたが、もう有り余るお金もありませんし、若者たちも少なくなっております。静かにこのまま行けばとてもいいのですが、このまま行けば、次の世代に耐え難い状況を先送りすることは明白です。

今こそ市民の皆様、この時代の大きな変化を真剣にお考えいただく時になったと考えます。私たちは、昭和という時代をいつまでもひきずるのではなく、昭和はすでに終着駅にあり、考え方も生き方も私たちは新たな時代に向う始発駅に立ったということです。

三豊市の進む第2ステージは、また新たな困難がありますが、それはまた新たな可能性へ挑戦できることでもあります。

健康で、自由で、多様な創造力のある、開かれた「田園都市みとよ」の充実を目指して、市民の皆様とともにスイッチを入れかえ、ギアをあげて力強く挑戦して参りたいと存じます。

議員各位、そして三豊市民の皆さまのご理解とご支援を心からお願い申し上げます、所信の表明とさせていただきます。